

平成 22 年 6 月 11 日

部門委員長就任にあたって

(社)日本材料学会複合材料部門委員会
委員長 合田 公一

平成 22 年度より委員長を仰せつかりました、山口大学の合田でございます。歴史ある複合材料部門委員会の委員長に指名されたことは誠に光栄でございますが、同時にその重責に身の引き締まる思いが致します。

周知のように、本部門委員会は昭和 40 年に設立されて以来、我が国の複合材料分野の発展に多大な貢献を果たしてきました。その主要な行事として、JCOM (旧 FRP シンポジウム) がございます。昭和 47 年に第 1 回 FRP シンポジウムが開催され、その後毎年、関西地区で開催されてきました。このシンポジウムでの講演を目標に、当時の若手研究者は日々研究に邁進し、優れた研究成果を挙げられたと聴いております。私自身も助手 (広島大学在職) の頃、当時座古勝委員長 (大阪大学) のご勧誘により部門委員会へ入会し、FRP シンポジウムで発表することに喜びを感じました。諸先輩方と討論できることによって成長を実感し、育てていただいたことに感謝しています。澤田吉裕前々委員長 (大阪市立大学) のとき、更なる活性化のために FRP シンポジウムの名を JCOM (JSMS COMPOSITES) に変え、旧来の複合化の視点に留まらず、構造や機能性も対象とした内容となりました。複合材料が産業界で幅広く使用され、様々な立場から評価されるようになった動向と認識しています。昨年度、北條正樹前委員長 (京都大学) のご尽力により、当部門委員会と日本複合材料学会 (末益博志会長・上智大学) の合同会議 (JCCM-1, JCOM39/JSCM2010, 平成 22 年 3 月 9~11 日、於：キャンパスプラザ京都) を持つことになりました。私自身も微力ながら、その実行委員長を仰せつかり、運営に携わらせていただきました。「日本を代表する複合材料会議」を目指した結果、175 件の講演、375 人の参加者があり、おそらくは複合材料関係の国内会議では最も規模の大きな会議となりました。日本の複合材料界の将来に明るい兆しが見えたように思います。もちろん、合同会議の成功は、日本複合材料学会側からも多数の参加があった結果であることを忘れてはなりません。

一方で、合同会議の発足に際しましては、部門委員の皆様から賛否両論の立場で数々のご意見を頂戴しました。時代の流れに即し、魅力ある JCOM にするための方策を幹事会で何度も議論し、その結果として合同会議の開催を決定した次第です。合同会議に関しましては、現在、アンケートを取らせていただき、皆様のご意見を再度頂戴しているところです。私自身としては、JCOM は単独/合同会議という形態のみならず、様々な可能性をも

って常に発展するような存在であり続けてほしいと思っています。つまり、学会の主たる役割の一つは、若い研究者を育て、良い仕事ができたと振り返れるように、当該研究分野を常に最先端の場に置くように導くことにあります。そのような挑戦的な JCOM を目指して、部門委員の皆様がエキサイトできるような JCOM の在り方を議論していきたいと考えています。その試みとして、今年度、JCOM 若手シンポジウム（平成 22 年 8 月 27、28 日、於：城崎大会議館、申込締切日：平成 22 年 7 月 20 日）を新たに企画させていただきました。新進気鋭の研究者が集い、討論できる場を提供するための初のシンポジウムです。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

その他の主要な行事として、定例委員会（研究会、見学会）を従来通り開催いたします。学会の方針にしたがって、単独開催はもちろん、他の部門委員会や他学会と合同で実施し、幅広い人的交流・情報交換を実現したいと考えています。また、ワーキンググループ活動（グリーンコンポ WG および量産車用コンポジットの開発 WG）につきましても、従来通り、積極的に活動を支援します。さらに、来年迎える学会創立 60 周年を記念して、記念出版作業部会なる新しい WG を立ち上げ、部門委員会の成果を積極的に公表していきたいと考えています。国際会議（ACCM, IWGC）に関しましても積極的に係わっていく所存です。今年 9 月に韓国で開催される The 6-th International Workshop on Green Composites (IWGC-6) では、100 件を超える講演申込みがあったと聴いております。10 件程度の講演から始まったグリーンコンポジット分野の急速な成長ぶりに驚嘆しています。また、11 月に台北で開催される The 7-th Asian-Australasian Conference on Composite Materials (ACCM-7)につきましても、北條前委員長から参加が呼び掛けられてきたところですが、ACCM-7 の終了後には、台中、台南へ赴き関連機関との国際交流を計画しています。こちらにつきましても、多数の皆様のご参加をお待ちしています。

最後になりますが、活気と活力に溢れる複合材料部門委員会を目指して頑張っていく所存ですので、部門委員の皆様のご協力、ご支援を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。